

## 第 193 回 学長定例記者会見

日時：令和 8 年 7 月 27 日（月）11：00～11：30

場所：メイン会場：広島大学東広島キャンパス 法人本部棟 5 階 5F2 会議室

サブ会場：広島大学霞キャンパス 臨床管理棟 3 階大会議室

※ テレビ会議システムによる配信は行わない

※ YouTube による録画配信を実施

### 【発表事項】

1. 8 月 6 日に広島大学原爆死没者追悼式を実施します
2. 平和への思いと知の志を未来へつなぐモニュメント「不滅の学灯」  
8 月 7 日に東千田キャンパスで除幕式を開催
3. 内閣府の「研究開発と Society 5.0 との橋渡しプログラム(BRIDGE)」に  
本学の課題が採択  
放射性デブリ取り出しなど廃炉作業を支える有力な技術として期待
4. 大学院海洋・海事系実践科学研究院（修士課程）の令和 9 年 10 月設置が  
決定 ～教育・研究拠点となる「呉キャンパス」を呉市内に整備～
5. アイダホ大学広島キャンパスの開校式を 8 月 21 日に開催します  
～グローバルに活躍する半導体人材を広島で育成～
6. 世界保健機関（WHO）が、広島大学を WHO 協力センター（WHO  
Collaborating Centre：WHOCC）に指定

### 【お知らせ事項】

1. 全国 700 基の原爆関連碑から読み解く被爆の記憶  
広島大学総合博物館で 20 周年記念の企画展を開催
2. 未来の研究者育成に向けた 2 つのイベント  
WPI-SKCM<sup>2</sup>が「小・中学生向け電子顕微鏡体験教室」と「高校・高専生科学  
ポスター発表会」を開催
3. 両生類研究センターイベント  
身近な種から海外の珍しい種まで、さまざまなカエルやイモリたちを一般公開  
します（9/12、10/3）

### ■次回の学長定例記者会見（予定）

日時： 令和 8 年 8 月 31 日（月）

場所： 広島大学 霞キャンパス

## 第 193 回 学長定例記者会見 発表事項 1

令和 8 年 7 月 27 日

8 月 6 日に広島大学原爆死没者追悼式を挙行します

本学では、広島大学に包括された旧制諸学校の教職員、学生、生徒および児童で、在職中または在学中、広島に投下された原子爆弾により被爆され、その後亡くなられた方々の霊を慰めるため、下記のとおり原爆死没者追悼式を執り行います。

## 記

日 時： 令和 8 年 8 月 6 日（木）午前 9 時 50 分開式  
場 所： 広島大学東千田キャンパス内  
「広島大学原爆死没者追悼之碑」前  
（広島市中区東千田町一丁目 1 番 89 号）

式次第： 開式の辞  
原爆死没者名簿奉納  
黙とう  
追悼の辞  
献花及び献水  
閉式の辞

※今回新たに確認された死没者 10 人を書き加えた原爆死没者名簿（記載数 2,122 人）を奉納

## &lt; 参考 &gt;

閉式後、引き続き、「原爆死没者遺骨埋葬の地碑」（東千田キャンパス内）に、広島文理科大学および広島高等師範学校の関係者による献花および献水を執り行います。

## 【お問い合わせ先】

財務・総務室総務・広報部総務グループ 畠山  
TEL:082-424-6032 FAX:082-424-6020



令和 8 年 7 月 27 日

### 平和への思いと知の志を未来へつなぐモニュメント「不滅の学灯」 8 月 7 日に東千田キャンパスで除幕式を開催

広島大学は、発祥の地である東千田キャンパスに、モニュメント「不滅の学灯（The Inextinguishable Lamp of Learning）」を建立し、令和 8（2026）年 8 月 7 日（金）10 時に除幕式を開催します。

本モニュメントは、原爆の犠牲となられた前身諸学校の方々をはじめ、広島大学に連なる人々が受け継いできた「平和の希求」「知への探究」「社会への貢献」の志を象徴的に可視化し、世代を超えて継承することを目的として整備するものです。被爆地・広島に生まれた大学として歩んできた歴史と理念を未来へつなぎ、本学に関わるすべての人々が共有する誇りと使命を次代へ伝える象徴として建立します。さらに、「不滅の学灯」には、広島大学の平和への思いと、知を探究し社会に貢献する志を未来へ受け継ぐ灯として、100 年後、その先もなお輝き続けてほしいとの願いを込めています。

また、モニュメントの後方には、本事業の趣旨にご賛同いただいた同窓生や教職員の皆様のお名前を刻んだ縦 50 mm、横 15 mm のプレートを表示する顕彰掲示板を設置します。広島大学の歩みを支えてきた多くの方々への感謝と敬意を表すとともに、本学に連なる人々の絆を目に見える形で後世へ伝え、未来の世代が大学の歴史と理念に触れる場となることを目指しています。

報道機関の皆様におかれましては、ぜひご取材くださいますようお願いいたします。

#### ■ 除幕式

日時：令和 8（2026）年 8 月 7 日（金）10 時～10 時 30 分（予定）

場所：東千田キャンパス（広島市中区東千田町一丁目 1 番 89 号）

[添付地図参照]

主な内容：

- ・学長挨拶
- ・モニュメント概要説明
- ・除幕
- ・記念撮影

\*会場には駐車場がございませんので、公共交通機関をご利用ください。

#### < 概要 >

名称：不滅の学灯（英語名：The Inextinguishable Lamp of Learning）

設置目的：原爆の犠牲となられた前身諸学校の方々をはじめ、広島大学に連なる人々が受け継いできた「平和の希求」「知への探究」「社会への貢献」の志を象徴的に可視化し、世代を超えて継承する。

発案：広島大学第 12 代学長 越智光夫

設計：広島大学大学院先進理工系科学研究科 建築設計学



＜不滅の学灯 設置イメージ 高さ約 3.5m＞



＜東千田キャンパス地図＞

【お問い合わせ先】

広島大学 「不滅の学灯」 事務局  
E-mail : [hirodai-gakutou@office.hiroshima-u.ac.jp](mailto:hirodai-gakutou@office.hiroshima-u.ac.jp)



第 193 回 学長定例記者会見 発表事項 3

令和 8 年 7 月 27 日

内閣府の「研究開発と Society 5.0 との橋渡しプログラム(BRIDGE)」  
に本学の課題が採択  
放射性デブリ取り出しなど廃炉作業を支える有力な技術として期待

このたび、内閣府の令和 8 年度「研究開発と Society 5.0 との橋渡しプログラム(BRIDGE) 経済安全保障トランスフォーメーション(ES-X) 加速化支援事業」に本学の課題「炭化ケイ素(SiC) CMOS 集積回路技術による高温等の過酷環境に適応可能なデジタル技術基盤構築」が、採択されました。

支援予定期間は、令和 8 (2026) 年 7 月から同 11 (2029) 年 3 月までの 2 年 9 カ月間で、今年度の支援額は 1.5 億円です。

本事業は、経済安全保障施策推進の観点から、研究開発の成果を社会実装につなげることを加速すべき事業を支援する内閣府のプログラムです。課題の内容は以下のとおりです。

＜事業、採択課題の概要＞

事業名：内閣府 研究開発と Society 5.0 との橋渡しプログラム

経済安全保障トランスフォーメーション(ES-X) 加速化支援事業

課題名：炭化ケイ素(SiC) CMOS 集積回路技術による高温等の過酷環境に  
適応可能なデジタル技術基盤構築

事業予定期間：令和 8 (2026) 年 7 月～同 11 (2029) 年 3 月

今年度支援額：1.5 億円

実施体制：広島大学、フェニテックセミコンダクター株式会社、  
量子科学技術研究開発機構(QST)

内容：

SiC(炭化ケイ素)を使った集積回路は、シリコン製の半導体よりも熱や放射線に強いという特徴があります。そのため、シリコン半導体では正常に動かなくなるような高温や強い放射線の環境でも、安定して動作させることができます。

この特徴は、電気自動車(EV)だけでなく、今後ますます利用が増える AI データセンターや、人と同じように周囲の状況を認識して動くロボット(フィジカルインテリジェンス)を支える技術としても期待されています。また、センサーやマイコン(機器を制御する小型コンピューター)などへの活用が進めば、新たな市場の拡大も見込まれます。

本研究では、特に「放射線に強い」という特徴を生かし、まずは原子力発電所の廃炉作業での利用を目指します。さらに、宇宙開発など過酷な環境で使われる機器への応用も視野に入れ、高温や強い放射線の中でも安定して動く電子機器の基盤技術を開発します。

例えば、今後本格化する福島第一原子力発電所の放射性デブリ(溶け落ちた核燃料など)の取り出し作業では、人が近づけないためロボットによる遠隔作業が欠かせません。しかし、強い放射線によってロボットのセンサーや制御装置が故障してしまうことが大きな課題です。SiC 集積回路を使えば、このような環境でもロボットを安定して動かせる可能性があり、廃炉作業を支える有力

な技術になると期待されています。

また、この研究は、日本が重要な半導体技術を国内で安定して確保することにもつながり、経済安全保障の強化や、SiC 半導体産業の発展にも貢献すると期待されています。

【お問い合わせ先】

半導体産業技術研究所 黒木伸一郎

Tel：082-4 2 4-6 2 6 7

E-mail：skuroki@hiroshima-u.ac.jp

# 研究開発とSociety 5.0との橋渡しプログラム BRIDGEについて

---

令和8年4月

内閣府

科学技術・イノベーション推進事務局



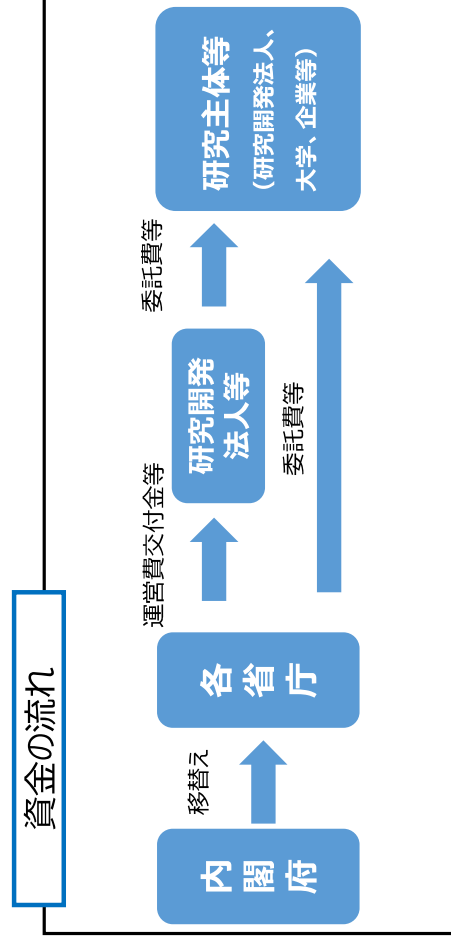
# 研究開発とSociety5.0との橋渡しプログラム（BRIDGE）概要

## 【目的】

- 総合科学技術・イノベーション会議（CSTI）がイニシアティブを取り、官民研究開発投資の拡大が見込まれる領域において、研究開発成果の社会実装を推進するため、各省庁の施策の支援・加速を図る。
- 戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）と一体的に取り組むことで、研究開発の社会実装を効果的かつ効率的に推進し、研究開発とSociety 5.0を橋渡しする。

## 【事業概要】

- 統合イノベーション戦略等に基づき、革新技術による社会課題解決や新事業創出の推進につながる「重点課題」（例：SIPや各省庁制度による研究開発成果の社会実装・市場開拓の加速化等）を設定し、各省庁の研究開発等施策のイノベーションを推進。＜研究開発型＞
- 中長期的に官民研究開発投資の拡大を図るため、スタートアップ・エコシステム拠点形成による創業環境整備を推進してスタートアップを支援する事業（令和2年度～）、科学技術・イノベーション創出の活性化に関する法律に基づく新SBIR制度における省庁連携を加速させる事業（令和3年度～）、社会課題解決や国際市場獲得等を促進する標準活用施策の加速化を支援する事業（令和3年度～）、地域と連携した外部資金拡大に意欲のある地域中核大学を支援する事業（令和4年度～）、経済安全保障トランスフォーメーションの加速化を支援する事業（令和8年度～）等を実施。＜システム改革型＞



## 期待される効果

### ＜研究開発型＞

各省庁施策のイノベーションを推進するとともに、官民研究開発投資の拡大又は財政支出の効率化に資する。

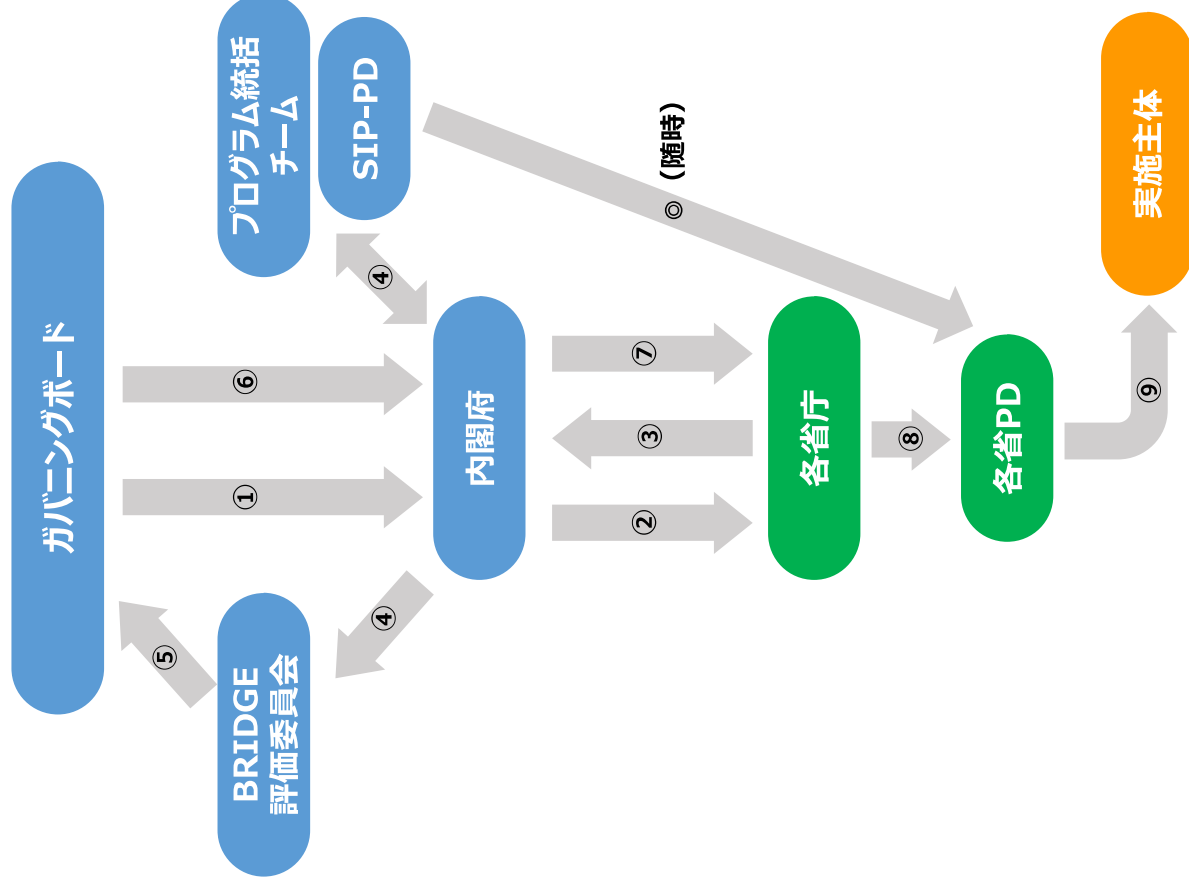
### ＜システム改革型＞

大学改革やスタートアップ創出環境の整備、省庁横断での研究開発から事業化までの切れ目ない支援の加速、戦略的な標準活用の推進、経済安全保障の観点からの研究開発等の効果的推進等。

# BRIDGE（研究開発型）に係る実施体制

## ＜BRIDGE運用指針に基づく重点課題の設定等のスキーム＞

- ① ガバニングボードは、毎年度、重点課題を設定
  - ② 内閣府は、各省庁から、重点課題に対応した施策の提案を募集  
※複数の重点課題に対応した提案も可能
  - ③ 各省庁は、施策の提案に当たって、施策の名称、各省PD、対象とする事業の概要、事業費及びそのうち推進費の配分を要望する額、事業期間、事業終了後のエグジジット戦略を記載した**研究開発等計画の案**を作成し、内閣府に提出
  - ④ 内閣府は、SIPのPDその他の有識者、プログラム統括チームにそれぞれ意見を聴取し、BRIDGE評価委員会に報告
  - ⑤ BRIDGE評価委員会は、施策の研究開発等計画について、事前評価
  - ⑥ ガバニングボードは、BRIDGE評価委員会での事前評価の結果を踏まえ、対象となる施策、推進費の配分額、事業期間を含む**実施方針**を策定
  - ⑦ 内閣府は、実施方針に基づき、各省庁の対象となる施策に対して、推進費を配分
  - ⑧ 各省庁は、各省PDを任命
  - ⑨ 各省PDは、BRIDGE評価委員会による評価及び実施方針に基づき、研究開発等計画を策定し、**当該研究開発等計画に基づき、施策を推進**  
※研究開発・施策の対象とする事業の実施に当たっては、特定の技術・設備・施設等を活用することが不可欠な場合などやむを得ない場合を除き、公募を実施  
※各省PDの業務のうち、対象とする事業の実施者の公募及び契約の締結、進捗管理等のマネジメント業務について、所管する独立行政法人を活用することができる
- ◎ SIPに関連する課題がある場合には、当該SIPのPDがSIPの推進委員会での意見を踏まえつつ、提案、助言及び支援を実施（随時）



# 令和8年度BRIDGE（研究開発型）重点課題

| No. | 重点課題の項目名                         | 概要                                                                                             |
|-----|----------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1   | SIPや各省庁制度による研究開発成果の社会実装・市場開拓の加速化 | SIPや各省庁の研究開発制度による研究開発成果について、社会情勢等を踏まえて社会実装や市場開拓の加速化を図る。                                        |
| 2   | 他の戦略分野等との技術の融合による研究開発            | AI、量子、マテリアル、バイオテクノロジー等との融合を通じて、研究開発の効率化・高度化により新たな成果を生み出し、それを社会や市場での新たな価値へと転換することで、社会実装の加速化を図る。 |
| 3   | スタートアップによるイノベーションの創出・促進          | 新事業創出を目指すスタートアップやスタートアップの設立を目指す研究者等の研究開発を支援し、イノベーションの創出・促進を図る。                                 |
| 4   | 産学官を挙げた人材の育成・確保                  | 産学官の連携により、研究開発マネジメント人材や高度な研究開発人材のほか、技術の国際展開や市場拡大を担う国際的なネットワーク形成と市場開拓を行う人材の育成・確保を図る。            |
| 5   | グローバルな視点での連携強化                   | 関係省庁や産学官が連携して、国際的なルールメイキングの主導・参画の推進、科学技術・イノベーション政策と経済安全保障政策との連携強化等を図る。                         |

# BRIDGE（システム改革型）に係る実施体制





令和 8 年 7 月 27 日

大学院海洋・海事系実践科学研究院（修士課程）の  
令和 9 年 10 月設置が決定  
～教育・研究拠点となる「呉キャンパス」を呉市内に整備～

広島大学が文部科学省に申請していた「大学院海洋・海事系実践科学研究院（修士課程）」について、令和 9 年 10 月の設置が認められました。

本研究院は、複数の研究科が緊密に連係して教育を行う「研究科等連係課程実施基本組織」として設置するもので、本学ではスマートソサイエティ実践科学研究院に次ぐ 2 例目の取り組みとなります。

本研究院では、国際的な視野と教養を備え、海洋・海事・造船分野に関わる「海洋政策・海洋ガバナンス」、「海洋利用技術」、「海洋環境・海洋資源」の 3 領域の基礎的知識に加え、各領域の高度な専門知識及び応用力を身に付けた文理融合型の高度人材を育成します。

入学定員は 15 人とし、教育はすべて英語で実施します。修了者には「修士（海洋・海事科学）」の学位を授与します。

今後、本格的に学生募集活動を展開します。

また、本研究院では、新たに呉キャンパスを整備し、呉沖周辺の海域全体も「学びの場」と位置づけて教育・研究を行います。本キャンパスは、「アジアにおける新たな海洋・海事の拠点づくり」を目指す呉市・広島大学 Town & Gown 構想の一環として、呉市と連携して整備を進めています。呉市が所有する呉駅西中央ビルの一部を改修し講義室等を整備したうえで、令和 9 年 10 月から授業を開始する予定です。

将来的には、生物生産学部附属練習船基地の周辺への移転も視野に入れ、地域に開かれた産学連携機能などを備えた複合施設の整備について、引き続き呉市と協議を進めていきます。

【お問い合わせ先】

＜大学院海洋・海事系実践科学研究院（修士課程）に関すること＞

広島大学国際協力学系支援室

Tel：082-424-6933 E-mail：kaiyoukaiji@office.hiroshima-u.ac.jp

＜呉キャンパスの整備に関すること＞

広島大学呉市・広島大学 Town & Gown Office

Tel：070-1477-8445 E-mail：kure-tgo-admin@office.hiroshima-u.ac.jp

# 海洋・海事系実践科学研究院（修士課程）



広島大学

Graduate School of Maritime and Marine Science

## 設置の必要性

- 気候変動や国際情勢の変化により、海洋環境、海事安全、海洋資源、国際ルール形成を統合的に担う人材育成が不可欠
- 広島大学には国内有数の造船工学の拠点としての実績があり、瀬戸内地域や呉市との連携、海洋工学・海洋学・水産学・国際法の強みを活かし、**文理融合型の海洋・海事学位プログラム**を構築

## 養成する人材像

国際的視野と教養を備え、海洋・海事・造船分野に関わる、**①海洋政策・海洋ガバナンス、②海洋利用技術、③海洋環境・海洋資源**の3領域の基礎的知識に加え、各領域の高度な専門知識及び応用力を身に付けた文理融合型高度人材

## 特色

### ● 英語で完結するカリキュラム

- ▶ 「海の平和利用と持続的発展」の国際展開を先導するグローバルリーダーの育成

### ● 実学重視の教育研究

- ▶ 本学の知を結集し、学外機関とも連携することで「海の平和利用と持続的発展」の国際展開を先導する人材・知の創出を目指す
- ▶ 学術×実務×実践の教育・研究を推進

### ● 新設する呉キャンパスを中心とした教育・研究

- ▶ 教室・実験棟・実際の海を「3つの学びの場」として活用し、理論と実践を融合した教育研究を展開
- ▶ 地元企業と連携した実践型インターンシップ・リカレント教育

設置時期

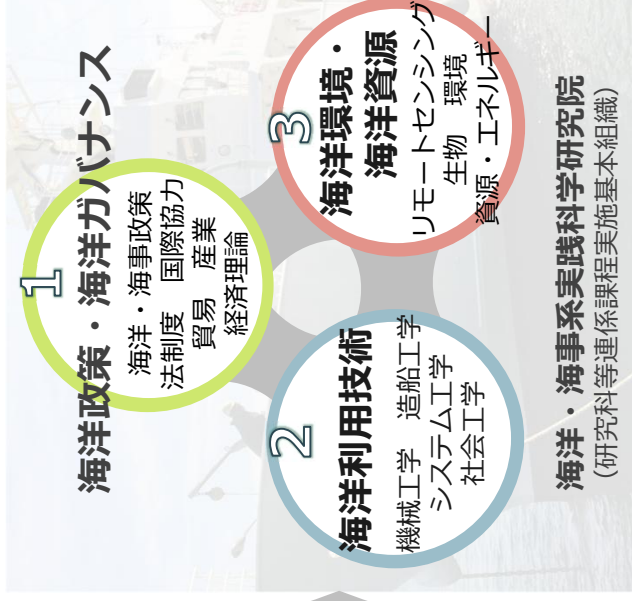
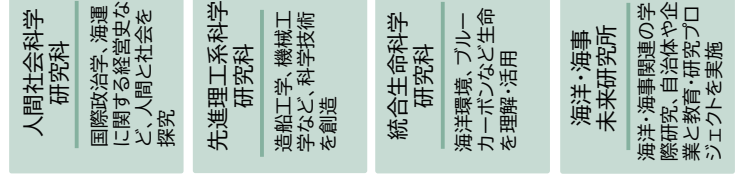
令和9年10月

入学定員

15名

授与する学位

修士(海洋・海事科学)



包括協定・共同研究・国際交流等

|           |                                                    |
|-----------|----------------------------------------------------|
| 呉市        | 「アジアにおける新たな海洋・海事の拠点づくり」を目指した呉市・広島大学 Town&Gown構想を推進 |
| 商船系高等専門学校 | 実践的スキルを備えた高専専攻科生の進学                                |
| 海上保安大学校   | 海上交通安全を担う人材の育成                                     |
| 企業等       | 実務的指導者として社会実装の実践教育                                 |
| 海外大学      | 世界展開力強化事業を通じてサマーコース、セミナー、シンポジウム、教員の招へい、短期交換留学等を実施  |

# 呉キャンパスの整備計画

2025-

2026.10

2027.10

2028-

呉市と拠点整備に向けて協議  
呉駅西中央ビル改修

呉駅西中央ビルの一部フロアの改修完了  
海洋・海事未来研究所に設置する海洋リモートセンシング技術センターを同施設内に配置、運用開始

海洋・海事系実践科学研究院  
(学位プログラム) 設置

用地確保後、拠点整備に向けて着工

STEP 1

呉市の協力により、呉駅西中央ビル（呉市所有）を改修し、講義室、院生研究室、教員研究室、海洋リモートセンシング教育研究室、事務室等を整備

STEP 2

呉市に設置している練習船基地の周辺に用地を確保し、地域に開かれた産学連携機能などを有する複合施設等の段階的な整備を進める

学位プログラム設置当初は呉駅西中央ビルを拠点を拠点に始動し、段階的に拠点の整備を進めていく

## 呉キャンパス

海洋・海事・造船分野が集積する呉市に、新たに設置する本研究院の中心となるキャンパス。  
練習船基地や海洋・海事未来研究所と連携しながら、以下のような教育・研究を展開していく。

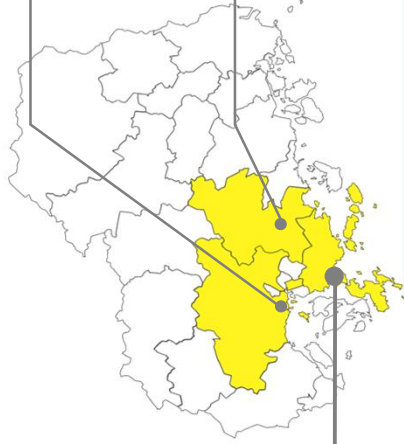


## 東千田キャンパス

法学、経済学、社会科学系の教育・研究を実施しており、呉キャンパスにおいて海洋・海事分野に特化した文理融合の教育・研究に展開

## 東広島キャンパス

西日本の大学で最大級の大型教育研究施設(曳船水槽、造波水槽、回流水槽、風洞)を活用して次世代船開発等に関する実験的研究を実施し、呉キャンパスでの実証に展開



### グローバル人材の育成

世界海事大学や海上保安大学校、本学海洋・海事未来研究所等と連携し、技術開発と法・政策を両輪とした海洋ガバナンス教育・研究を通じて、グローバルリーダーを育成

### 先端技術 & デジタル人材

AI、デジタルツイン、海洋ロボティクス、海洋リモートセンシングなどの先端技術を活用し、次世代の船舶・港湾・物流を支える技術開発と高度デジタル人材を育成

### 環境保全 & サステナビリティ

DX・GXを活用したスマート水産、ブルーカーボン、海洋環境モニタリングなどの教育・研究を通じて、海洋資源の持続可能な利用と海洋環境の保全を担う人材を育成

### 実践型人材育成 & 産学官共創の推進

- 海洋・海事産業と連携したインターンシップやリカレント教育を展開
- 産学官共創による地域課題解決型研究とイノベーションの推進（COI-NEXT）



令和 8 年 7 月 27 日

### アイダホ大学広島キャンパスの開校식을 8 月 21 日に開催します ～グローバルに活躍する半導体人材を広島で育成～

アイダホ大学広島キャンパス（University of Idaho Hiroshima Campus）の開校式を下記のとおり開催しますので、お知らせいたします。

アイダホ大学広島キャンパスは、令和 7 年 11 月に文部科学大臣から「外国大学等の日本校」の指定を受けた教育機関であり、学生はアイダホ大学の正規学生として入学し、所定の課程を修了するとアイダホ大学の学位が授与されます。

本キャンパスでは、半導体分野に特化した学士課程プログラム（Microchips Engineering & Security Alliance（MESA））を展開します。学生は広島大学のキャンパスで最初の 2 年間学んだ後、アイダホ大学（米国アイダホ州）へキャンパスを移し、世界的な半導体産業を支える高度専門人材として必要な知識・技術を修得します。

カリキュラムは英語で実施され、数学、物理、化学などの基礎科目に加え、電気回路、コンピュータサイエンスなどの専門科目を体系的に学びます。また、実験や演習を通じて、半導体産業で求められる実践的な知識・技術を養います。

初年度は、日本をはじめ、ベトナム、米国、インド、韓国、ネパール、ナイジェリア、バングラデシュなど、多様な国・地域から 21 人の学生が入学予定です。学生は 8 月 19 日から本学の池の上学生宿舎への入居を開始し、開校式後には履修登録や日本での生活、キャンパス利用等に関するオリエンテーションを受講した後、8 月 24 日から MESA プログラムのカリキュラムがスタートします。広島大学のキャンパスにおいて、多様な文化的背景を持つ学生同士が共に学ぶ国際的な教育環境が本格的に始動します。

広島大学は、長年にわたり半導体研究・人材育成を推進してきた国内有数の研究拠点であり、本キャンパスの設置を契機として、アイダホ大学との教育・研究連携をさらに深化させるとともに、地域産業界とも連携しながら、広島から世界へ半導体グローバル人材を輩出する新たな教育モデルを推進していきます。

## 記

日 時 令和 8 年 8 月 21 日（金）11 時  
場 所 広島大学学士会館レセプションホール  
式次第

- ・開式の辞
- ・入学許可宣言
- ・アイダホ大学挨拶
- ・広島大学挨拶
- ・来賓祝辞
- ・閉式の辞

※詳細につきましては、決まり次第改めてプレスリリースにてお知らせいたします。

### 【お問い合わせ先】

|                                                                                                             |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 広島大学 国際室国際部グローバル化戦略グループ<br>グループリーダー 吉盛<br>Tel：082-424-4621<br>E-mail：g-strategy-gl@office.hiroshima-u.ac.jp |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

令和 8 年 7 月 27 日

## 世界保健機関（WHO）が広島大学を WHO 協力センター（WHO Collaborating Centre : WHOCC）に指定

広島大学（学長：越智 光夫）は、令和 8 年（2026 年）6 月 23 日付で、世界保健機関（WHO）より「緊急医療チームの情報管理に関する WHO 協力センター（WHO Collaborating Centre for Emergency Medical Teams Information Management）」に指定されました。

本指定により、本学は大規模災害や人道危機における WHO の国際保健活動および緊急医療チーム（EMT: Emergency Medical Teams）を国内外で情報管理面から支援する、国際的な学術拠点としての役割を担います。

世界保健機関協力センター（WHO Collaborating Centre : WHOCC）は、WHO が世界各国の大学や研究機関の中から、特定の分野における高い専門性と優れた実績を評価して指定する国際的な協力ネットワークです。現在、世界 80 以上の国・地域に 800 を超える協力センターが設置されています。日本国内では、国立感染症研究所や放射線影響研究所（RERF）など十数機関が指定されており、今回の指定は本学の国際的な研究・活動実績がトップレベルであると認められたことを示しています。

今回の指定は、本学が国内外のパートナー機関と緊密に連携しながら地道に積み重ねてきた災害医療および公衆衛生分野での実績が、国際的に高く評価された結果です。「災害対応大国」である我が国が培ってきた当該分野の強み・ノウハウを世界へ展開すると同時に、世界各地の多様な医療支援の取り組みから学びを得ることで、日本国内の災害医療体制のさらなる強化にもつなげる極めて重要な契機となります。



今後は WHO や国内外の関係機関との連携をさらに強化し、WHO 関係会合の開催、専門人材の育成、ジャパンメイドの防災 ICT システムの国際提供等国際共同研究等の推進を通じて、全ての被災傷病者が適切な医療にアクセスし続けられる体制構築に地球規模で貢献してまいります。

### ■ 指定の概要

センター名称：WHO Collaborating Centre for Emergency Medical Team Information Management

指定機関：広島大学（センター長：大学院医系科学研究科公衆衛生学：久保達彦教授）

指定期間：2026 年 6 月 23 日～2030 年 6 月 22 日

協力分野：緊急医療チームの情報管理

< 参考 > 災害医療の最前線で貢献-広島大学医学部 80 周年

<https://med80th.hiroshima-u.ac.jp/topics/04/>



写真提供：国際協力機構

< 参考：災害保健分野を専門とする WHOCC >

東ピエモンテ大学 CRIMEDIM（イタリア/ピエモンテ州）

災害医療、緊急医療、国際医療支援

兵庫県立大学（日本/兵庫県）

災害健康危機管理

量子科学技術研究開発機構（日本/千葉県）

放射線緊急医療

広島大学（日本/広島県）

緊急医療チームの情報管理

【お問い合わせ先】

広島大学大学院医系科学研究科 公衆衛生学 久保 達彦

Tel：082-257-5167

E-mail：[huph-carp@hiroshima-u.ac.jp](mailto:huph-carp@hiroshima-u.ac.jp)

令和 8 年 7 月 27 日

全国 700 基の原爆関連碑から読み解く被爆の記憶  
広島大学総合博物館で 20 周年記念の企画展を開催

広島大学総合博物館では、開館 20 周年記念事業の一環として、2026 年 7 月 29 日（水）から 9 月 30 日（水）まで、第 37 回ふむふむギャラリー「全国に刻まれた原爆・非核平和の記憶—700 基のモニュメントをたどる—」を開催します。

本企画展は、教育学部内の教員・大学院生を中心に構成される原爆関連碑企画展グループ（代表：熊原康博・大学院人間社会科学研究科教授）が企画・制作したもので、全国約 700 基に及ぶ原爆・非核平和関連碑を調査した研究成果を初めて体系的に紹介します。科研費（25K21881）の研究成果を広く社会へ発信するものです。

広島・長崎の被爆地だけでなく、全国各地には慰霊碑や平和碑、被爆石、「平和の火」など 700 基を超える原爆・非核平和関連のモニュメントが建立されています。本企画展では、全国各地で実施した現地調査をもとに、それらの建立年代や建立主体、建立場所、碑文の特徴などを分析し、被爆の記憶が各地域でどのように受け継がれ、非核・平和への願いとして継承されてきたのかを紹介します。

また、8 月 1 日（土）には熊原教授による記念講演会「全国の原爆関連碑を訪ねて—被爆の記憶と非核・平和意識の広がり—」を教育学部 L104 講義室で開催します。全国調査の成果を紹介するとともに、原爆関連碑を通じた日本の平和運動の広がりや、平和教育への活用の可能性について考えます。

本企画展を通じて、広島大学の研究成果を広く社会へ発信するとともに、被爆の記憶を未来へ継承する契機となることを目指します。

**【企画展開催概要】**

名称：広島大学総合博物館 第 37 回ふむふむギャラリー

全国に刻まれた原爆・非核平和の記憶—700 基のモニュメントを  
たどる—

会期：2026 年 7 月 29 日（水）～9 月 30 日（水）

会場：広島大学総合博物館（東広島キャンパス）

主催：広島大学総合博物館

企画・制作：原爆関連碑企画展グループ（代表：熊原康博・広島大学大学院人間社会科学研究科教授）

内容：全国約 700 基の原爆・非核平和関連碑に関する調査成果を紹介するとともに、建立年代や建立主体、碑文などを分析し、被爆の記憶が全国でどのように継承されてきたかを紹介します。

旧広島市庁舎被爆石やモニュメントの 3D モデル 15 点の展示など、さまざまな展示を行います。

入館料：無料

開館時間：10:00～17:00（入館は 16:30 まで）

休館日：日、月、火曜日、祝日、お盆期間

#### 【記念講演会開催概要】

名称：記念講演会

全国の原爆関連碑を訪ねて一被爆の記憶と非核・平和意識の広がり一

日時：2026 年 8 月 1 日（土） 13:30-15:30

会場：教育学部 L104 講義室

講師：熊原 康博（広島大学大学院人間社会科学研究科教授）

内容：全国約 700 基の原爆・非核平和関連碑の調査成果を紹介するとともに、原爆関連碑を通じた日本の平和運動の広がりや、平和教育への活用の可能性について解説します。

定員：60 人

参加費：無料

申込方法：チラシ記載の二次元コードよりお申し込みください

申込期限：7 月 31 日（金）

#### 【お問い合わせ先】

教育学部社会認識教育学プログラム

教授 熊原 康博

[TEL:082-424-7069](tel:082-424-7069)

メール：[kumakuma@hiroshima-u.ac.jp](mailto:kumakuma@hiroshima-u.ac.jp)

全国に刻まれた

# 原爆・非核平和の記憶

— 700 基のモニュメントをたどる —

被爆地である広島・長崎だけでなく、日本全国には 700 基を超える原爆・非核平和関連の碑やモニュメントが建立されています。

本企画展では、それらの分布や建立主体、碑文、建立時期などを調査した成果をもとに、日本各地でどのように被爆の記憶や平和への願いが継承されてきたのかを紹介します。

慰霊碑・非核平和碑・被爆石・平和の火など多様なモニュメントを通して、地域ごとに異なる「平和の記憶」のあり方を読み解くとともに、その保存・継承の課題や平和教育への活用について考えます。

【写真】①いのり（宮城県仙台市青葉区）、②平和の塔（福岡県八女市星野村）、  
③原爆犠牲者追悼碑（東京都江戸川区）、④平和祈念原爆犠牲者の碑（熊本県熊本市）



2026 7/29 ▶ 9/30 水 水

【開館時間】  
10:00-17:00（入館は16:30まで）

【休館日】  
日・月・火曜日、祝日  
及びお盆期間

【入館料】 無料

総合博物館 HP



会場：広島大学 総合博物館 本館 〒739-8524 広島県東広島市鏡山 1-1-1

## 主な展示

- 全国 700 基超のモニュメントの分布
- 各地の慰霊碑・モニュメントの紹介
- 旧広島市庁舎 被爆石
- 被爆石・「平和の火」の全国的な広がり
- モニュメントの 3D モデル
- 原爆死没者慰霊碑 碑文色紙
- 平和教育への取り組み事例

## 関連イベント

### ■講演会【要申込】

2026 年 8 月 1 日（土）13:30-  
熊原康博「全国の原爆関連碑を訪ねて  
—被爆の記憶と非核・平和意識の広がり—」  
会場：教育学部 L104 講義室

### ■ギャラリートーク【申込不要】

2026 年 8 月 7 日（金）10:00-15:00  
教育学部オープンキャンパス開催日

### ■お問い合わせ

kumakuma@hiroshima-u.ac.jp（熊原）

講演会申込



主催 原爆関連碑企画展グループ、広島大学総合博物館

協力 広島大学教育学部、広島大学文書館

企画 原爆関連碑企画展グループ（代表 熊原康博、広島大学教育学部教授）

助成 JSPS 科研費（25K21881）、公益財団法人国土地理協会学術研究助成、広島大学教育学部共同研究プロジェクト





第 193 回 学長定例記者会見 お知らせ事項 2

令和 8 年 7 月 27 日

未来の研究者育成に向けた二つのイベント  
WPI-SKCM<sup>2</sup>が「小・中学生向け電子顕微鏡体験教室」と  
「高校・高専生科学ポスター発表会」を開催

広島大学持続可能性に寄与するキラルノット超物質国際研究所(WPI-SKCM<sup>2</sup>)では、未来の科学技術を担う若い研究者の育成を目的として、小・中学生を対象とした理科教室および高校生・高等専門学校生を対象とした科学ポスター発表会を開催します。最先端の研究設備や研究者との交流を通じて、科学への興味や探究心を育み、将来の進路選択のきっかけとなる機会を提供します。

① キラルノット理科教室「電子顕微鏡で見えるカタチ」

小学生・中学生を対象に、電子顕微鏡を使った観察体験イベントを開催します。走査電子顕微鏡（SEM）を使ったミクロな世界の観察に加え、今年 Science Knot に設置された最先端の透過電子顕微鏡（TEM）の見学も行います。研究者が原子や分子の世界をどのように観察・解析しているのかを、実際の研究機器を通じて学ぶことができます。

【開催概要】

日 時：8 月 19 日（水）13:00～16:00  
会 場：広島大学東広島キャンパス Science Knot 2 階大会議室  
対 象：小学生・中学生  
定 員：20 人  
参加費：無料

② 高校・高専生科学ポスター発表会

高校生・高等専門学校生による科学研究ポスター発表会を開催します。発表では WPI-SKCM<sup>2</sup>の若手研究者や大学院生が参加者へ直接フィードバックを行うほか、研究者との交流昼食会やサイエンストーク、研究施設見学（ラボツアー）も実施します。最先端の研究に触れながら、科学研究の魅力や将来の進路について考える機会を提供します。

【開催概要】

日 時：9 月 26 日（土）10:30～16:00  
会 場：広島大学東広島キャンパス Science Knot 2 階大会議室  
対 象：高校生・高等専門学校生  
定 員：ポスターの上限は 30 枚

参加費：無料

※申込方法等の詳細は別添チラシ参照

【お問い合わせ先】

持続可能性に寄与するキラルノット超物質国際研究所事務室

担当：徳永 真由美

TEL: 082-424-8074

E-mail: [chiral-secretary@office.hiroshima-u.ac.jp](mailto:chiral-secretary@office.hiroshima-u.ac.jp)

## 電子顕微鏡で見えるカタチ ～分子ってなに？ キラリティってなに？～

目に見えない  
小さなセカイを  
見てみない？



私たちの身の回りのものは、すべて原子や分子からできています。しかし、それらはとても小さいため、普通の光学顕微鏡では見る事ができません。また、生き物や薬のはたらきにも深く関わる「キラリティ」という不思議な性質もあります。本教室では、光学顕微鏡から電子顕微鏡（SEM・TEM）を利用することで、さまざまな物質を「見る」体験をしていただきます。

\*キラリティ…右手と左手のような形の違い

### 光学顕微鏡体験（講習・実習）

理科室でも馴染みの「光学顕微鏡」、その先端装置を利用した物質の可視化・偏光現象を体験します。

### 電子顕微鏡体験（講習・実習）

目に見えない世界を観察するための「電子顕微鏡」を紹介します。そうさ **走査電子顕微鏡（SEM）** を使って、光学顕微鏡では見えないミクロな世界を観察します。どんなものがどのように見えるのか一緒に体験してみましょう！

### 最先端の透過電子顕微鏡体験（講習・見学）

JEOL × Hiroshima University Knotted Roomに設置された最先端の **とうか 透過電子顕微鏡（TEM）** も見学します。研究者たちが原子や分子の世界をどのように調べているのか、実際の研究現場を体験できます！

日 時：2026年**8月19日**（水） 13:00-16:00

場 所：広島大学東広島キャンパス

Science Knot 2階 大会議室



JEOL x Hiroshima University  
Knotted Room

対 象：小学生・中学生（定員20名）

参加費：無料

申込URL：<https://forms.office.com/r/nkdh86mxwZ>

申込締切：8月5日（水）※定員に達した時点で申込を締め切ります



主 催：広島大学持続可能性に寄与するキラルノット超物質国際研究所  
日本電子株式会社

協 力：株式会社ニコンソリューションズ

問合せ先：chiral-secretary@office.hiroshima-u.ac.jp



SKCM<sup>2</sup>  
WPI HIROSHIMA UNIVERSITY



世界トップレベル研究拠点プログラム (WPI)

持続可能性に寄与するキラルノット超物質国際研究所 (SKCM<sup>2</sup>)

# Intertwined Science *for* Sustainability

## 高校・高専生科学ポスター発表会

2026年 9月26日(土)

場所：広島大学 Science Knot

時間：10時30分 - 16時00分

中四国唯一の世界トップレベル研究拠点プログラム (WPI)

SKCM<sup>2</sup>が主催する高校・高専生向け科学ポスター発表会！

持続可能性に寄与する研究のみならず、幅広い研究に関して発表者を募集中。

英語発表も歓迎！所属研究者によるトークセッション・研究所見学も！

参加登録  
はこちら



## 高校生科学ポスター発表会

## 研究所見学ツアー

## サイエンストーク



世界トップレベル研究拠点プログラム (WPI) は、平成19年度から文部科学省の事業として開始されました。システム改革の導入等の自主的な取組を促す支援により、第一線の研究者が世界から多数集まってくるような、優れた研究環境とさきわめて高い研究水準を誇る、「世界から目に見える研究拠点」の形成を目指しています。日本学術振興会では、世界トップレベル研究拠点プログラム委員会を設け、審査・評価・進捗管理及びプログラム成果の最大化に向けた活動支援に係る業務を行っています。

主催：広島大学 持続可能性に寄与するキラルノット超物質国際研究所

後援：広島県教育委員会

お問い合わせ：chiral-secretary@office.hiroshima-u.ac.jp





令和 8 年 7 月 27 日

9 月 12 日（土）、身近な種から海外の珍しい種まで、  
さまざまなカエルやイモリたちを一般公開します

両生類研究センターでは、地域の皆さまに両生類の魅力や研究活動について広く知っていただくため、年に 5 回ほど週末等の休日に「週末開放日」を設け、センター 1 階展示スペースを一般公開しています。展示スペースでは、日本各地から集められたさまざまな両生類のほか、貴重な標本類などを見ることができます。また、センターで行われている研究や事業について紹介するパネルも常設しており、両生類に関する知識を楽しく学ぶことができます。



週末開放日にはセンタースタッフが常駐し、飼育や研究、身近な両生類に関する質問などにお答えしますので、ぜひ聞いてみてください。今年度は冬季までに計 6 回の開催を予定しており、9 月 12 日はその第 4 回目です。多様な両生類を間近で観察できる機会として、多くの皆さまのご来場を楽しみにお待ちしております！



なお、1 階展示スペースは平日 9 時から 17 時まで開放しています。週末開放日にご都合がつかない方も、ぜひ平日の見学にお越しください。

日時：2026 年 9 月 12 日（土）13：00～15：00

場所：広島大学両生類研究センター（<https://amphibian.hiroshima-u.ac.jp/> トップページ上の「アクセス」をご参照ください。）

予約：不要

料金：無料



今年度最後の週末開放日は 10 月 3 日（土）です。この日は学生企画と同時開催となります。詳しくは決まり次第前述のホームページで発表します。

【お問い合わせ先】

両生類研究センター  
事務室 濱本 由美子

TEL:082-424-7328

FAX:082-424-0739





平日のみの常設展

# 週末開放日

日時: 2026年9月12日(土)、10月3日(土) 13:00~15:00

場所: 広島大学 両生類研究センター

両生類研究センターは平日の日中に常設展示として1階展示スペースを開放しているのに加え、平日になかなかお越しいただけない方々にも楽しんでいただけるよう、定期的に週末に開放日を設けています。今年度は冬眠シーズンに入るまでの間、残り3回の週末展示を開催いたします。週末開放日は平日の展示とは異なり、解説員として両生研のスタッフが数名常駐しています。両生類にまつわる疑問など、ぜひなんでも聞いてください。企画展や学生企画が開催される月もありますので、こちらもお楽しみに。皆様のお越しを両生類たちと共にお待ちしております！

**10月3日(土)開催予定!両生研学生企画の催しを行います!**

6月にご好評いただいた、両生研に所属する学生さんたちが企画開催する両生類たちの体のカタチに焦点をあてた公開講座・ワークショップを再度開催いたします。詳細は両生類研究センターホームページでご案内させていただきます。

予約不要でご入場いただけます。

\*学生企画への参加には事前のお申し込みが必要です。  
詳細が決まり次第、HPで情報を公開させていただきます。

次回は11月7日に行われる

大学のホームカミングデーと同時開催を予定しています!

お問い合わせ先: frogjimu@hiroshima-u.ac.jp



両生類研究センター  
へのアクセス



両生類研究センター  
ホームページ

